

7月梅雨前線豪雨



土砂災害現場での復旧活動〔写真提供／熊本県 土木部〕

すべてが予想を超えた



並はずれた量の雨が狭い範囲に集中した

平成15年7月19日から20日にかけて、狭い範囲で猛烈な雨が長時間降り続いた。総雨量が300mmを超える範囲は太宰府から北九州市にかけての帯状の範囲に集中した。このため浸水被害が福岡県に集中し、飯塚市街や福岡市の博多駅前では浸水被害が、太宰府では土砂災害が発生した。人的被害として大きかったのが7月20日水俣市の宝川内集地区・深川新屋敷地区で発生した土石流災害で、計19人の犠牲者を出している。

この7月梅雨前線豪雨による被害は、九州を中心に全国で死者23人、負傷者25人、住家全壊51棟、半壊56棟、一部破損161棟、床上浸水3,558棟、床下浸水4,188棟となっている。



遠賀川の内水氾濫状況
〔写真提供／遠賀川河川事務所〕



福岡市営地下鉄に流れ込む濁流
〔写真提供／九州地方整備局〕



水俣市宝川内集地区の土砂災害現場
〔写真提供／九州地方整備局〕